

3 子ども・子育て支援事業計画策定に伴うニーズ調査からみる子育て家庭の現状

(1) ニーズ調査の概要

【目的】

子ども・子育て支援法に基づき、米沢市における子ども・子育て支援事業計画を策定するにあたり、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の現在の利用状況及び利用希望を把握することを目的に行いました。

【調査期間】

平成25年11月18日から12月2日まで

【実施方法】

種類	調査対象者	配布・回収方法	配布数	回収数	回収率
未就学児用	就学前児童の保護者	郵送による配布・回収	1,500件	714件	47.6%
就学児用	小学生児童の保護者	郵送による配布・回収	1,500件	695件	46.3%

【調査内容】

- ① 保護者の状況
- ② 子どもの育ちをめぐる環境
- ③ 保護者の就労状況
- ④ 平日日中の定期的な教育・保育事業の利用状況（未就学児の保護者のみ）
- ⑤ 土日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用状況（未就学児の保護者のみ）
- ⑥ 病気の際の対応
- ⑦ 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用
- ⑧ 地域子育て支援事業（子育て支援センター等）の利用状況
- ⑨ 小学校就学後の放課後の過ごし方（就学児の保護者のみ）
- ⑩ 育児休業や短時間勤務など職場の両立支援制度の状況
- ⑪ 子育ての環境や支援に関する意見

(2) ニーズ調査結果の概要

本調査結果のグラフは、グラフ内に表記があるもの以外は、左側が未就学児

、右側が就学児 を表しています。

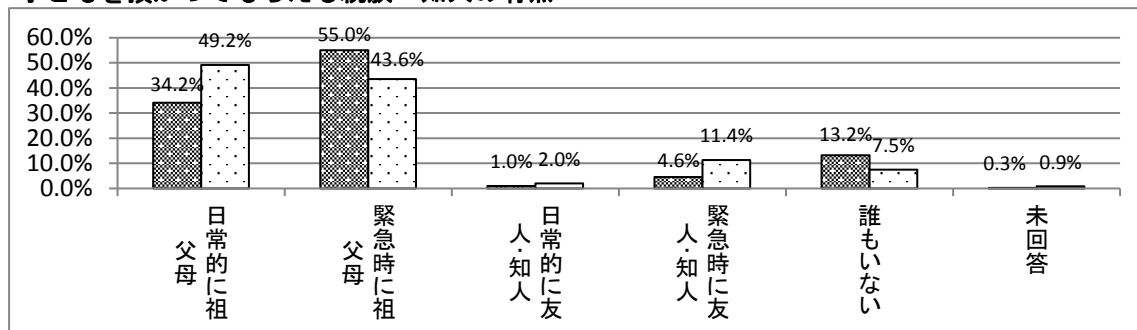
① 保護者の状況

主に子育てを行っている人は、未就学児、就学児ともに「父母共に」が約半数を占め、次いで「主に母親」となっています。

② 子どもの育ちをめぐる環境

子どもを預かってもらえる親族・知人の有無については、未就学児、就学児共に「日常的及び緊急時は祖父母」に依頼との回答が多くありました。一方「誰もいない」との回答が未就学児で1割強ありました。

子どもを預かってもらえる親族・知人の有無

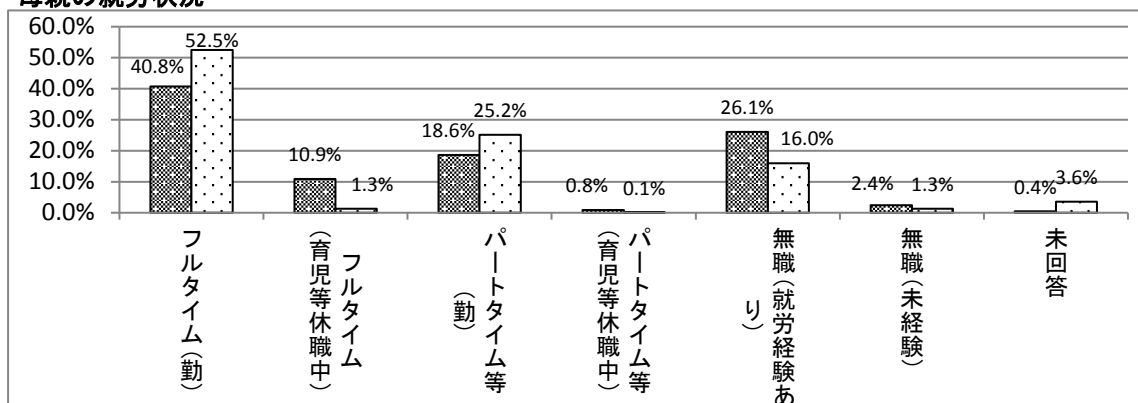


③ 保護者の就労状況

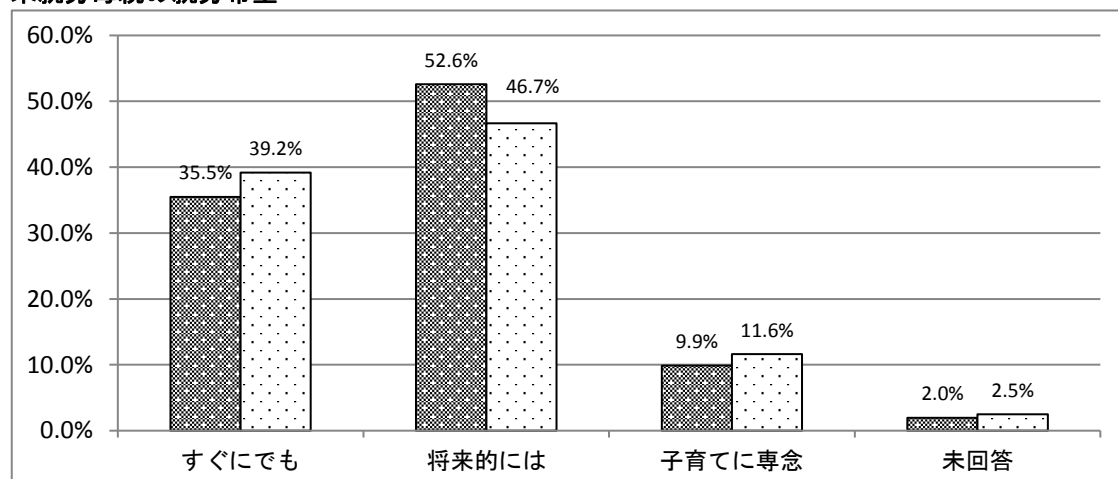
母親の就労状況は、未就学児、就学児とも約5割（育児等休職中を含む）が「フルタイムの就労」となっており、「パートタイムの就労」と合わせると約7割が就労している結果でした。

現在の未就労の方の就労意向は、「すぐにでも就労したい」が約3割強、「将来的に就労したい」が約5割と就労意向が高い結果となりました。

母親の就労状況



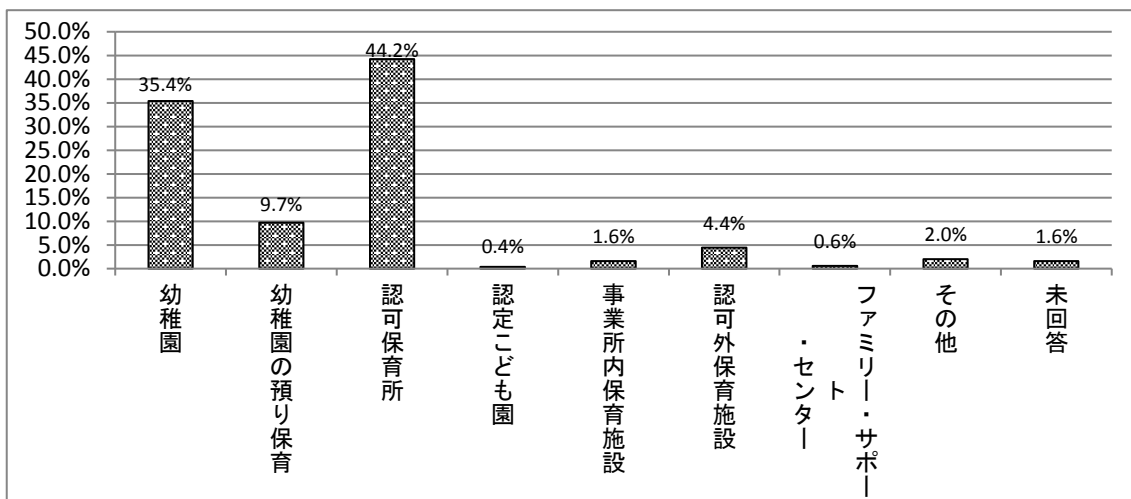
未就労母親の就労希望



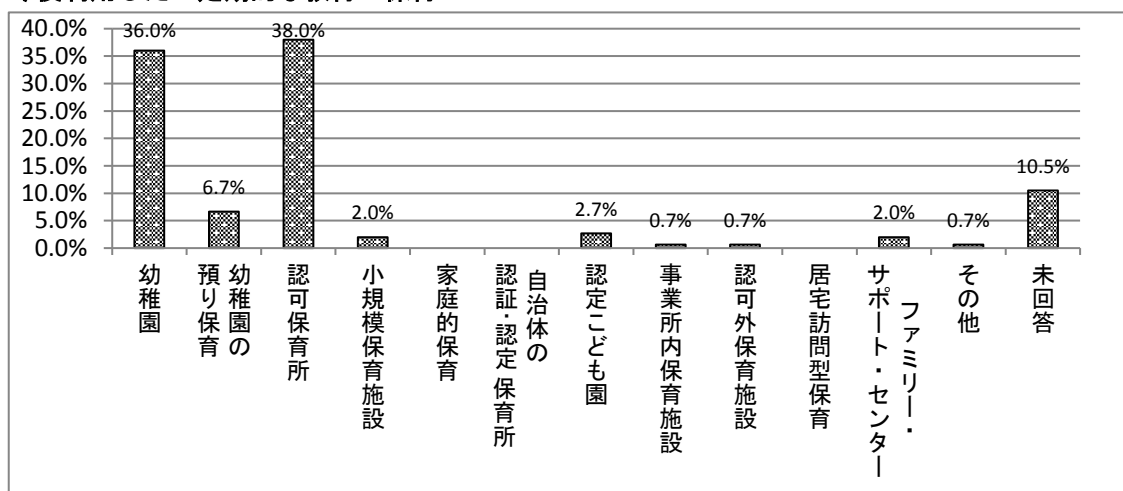
④ 平日日中の定期的な教育・保育事業の利用状況

約7割の人が定期的な教育・保育事業を利用しており、最も多いのは「認可保育所」次いで「幼稚園」となっています。また、今後の利用意向については、「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」を合わせて希望が最も多く、次いで「認可保育所」となっています。今後の教育・保育事業の利用意向については、平成27年度で0歳児53.9%、1、2歳児53.2%が利用したいとの意向が見込まれました。

現在利用している定期的な教育・保育



今後利用したい定期的な教育・保育



平成27年度の教育・保育の利用見込みの量

年齢	児童数	1号認定	2号認定	3号認定	合計	施設利用率
0歳児	612	—	—	330	330	53.9%
1・2歳児	1,286	—	—	684	684	53.2%
3歳以上	2,146	502	1,470	—	1,972	91.9%
合計	4,044	502	1,470	1,014	2,986	73.8%

児童数：コーホート変化率法による人口推計より

⑤ 土日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用状況

土曜日の利用希望については、「ほぼ毎週利用したい」と「月に1～2回利用したい」をあわせると約5割となり、「利用する必要はない」とほぼ同じ割合となりました。「月

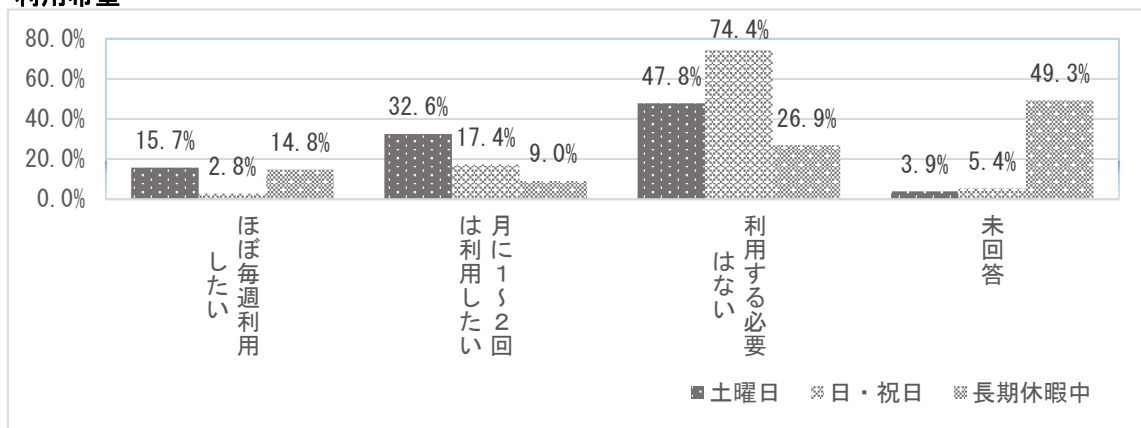
に1～2回利用したい」理由として、「月に数回仕事が入るため」が5割を超え、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が3割強、「息抜きのため」が2割弱となりました。

日・祝日の利用希望については、「ほぼ毎週利用したい」と「月に1～2回利用したい」をあわせて約2割となり、「利用する必要はない」は7割を超えています。「月に1～2回利用したい」理由として、「月に数回仕事が入るため」が約7割弱ありました。

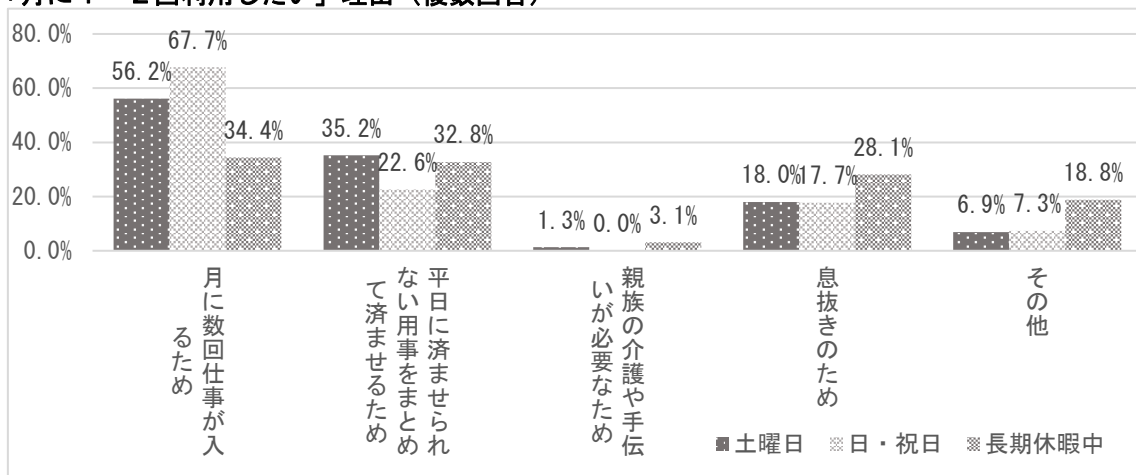
土日ともに、利用したい時間帯は8：00～18：00が多くなっています。

幼稚園利用者の長期休暇中の利用希望については、「ほぼ毎週利用したい」と「月に1～2回利用したい」で2割強となり、理由として「月に数回仕事が入るため」と「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が3割強、「息抜きのため」が3割弱となりました。「利用する必要はない」は3割弱でした。

利用希望



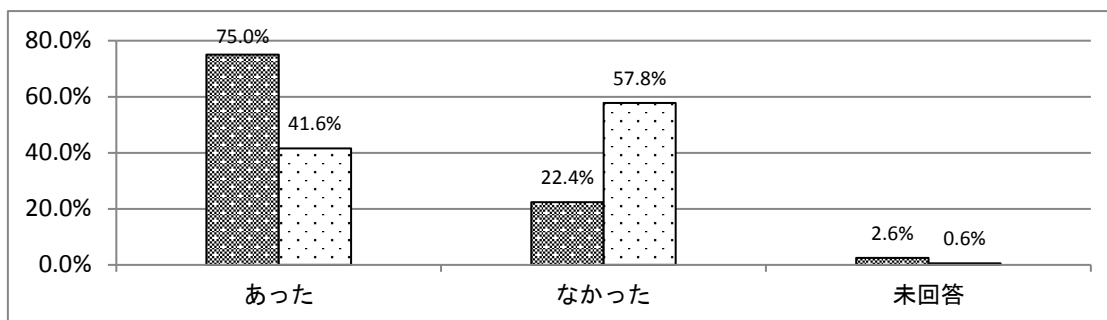
「月に1～2回利用したい」理由（複数回答）



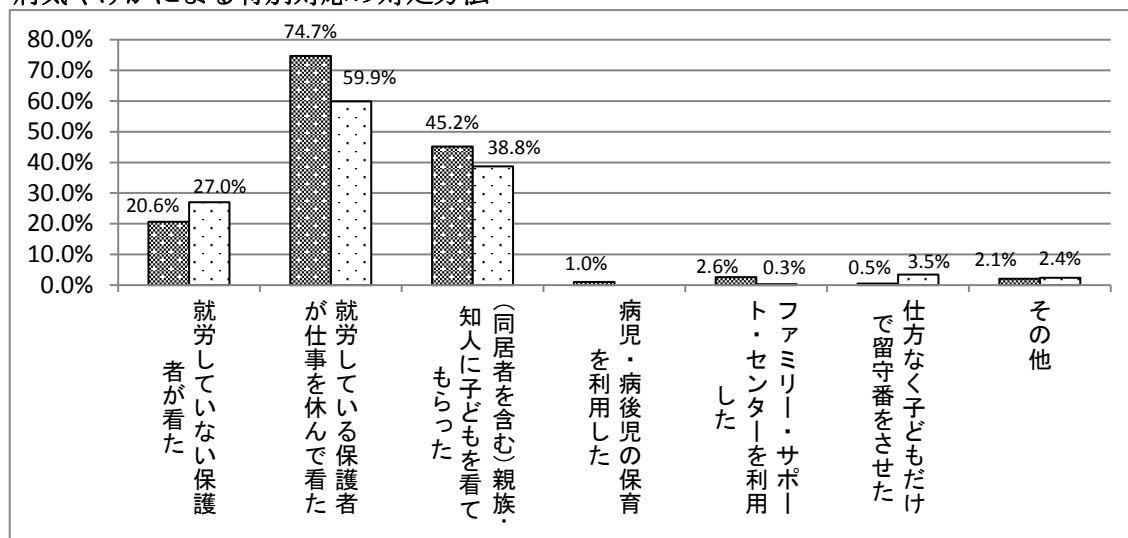
⑥ 病気の際の対応

病気やけがによる特別対応の必要性について、「あった」が、未就学児では7割を超え、就学児で約4割となりました。対処方法としては、未就学児・就学児ともに「就労している保護者が仕事を休んで見た」が最も多く、次いで「親族・知人に子どもをみてもらった」となっています。「病児・病後児の保育を利用した」と「ファミリー・サポート・センターを利用した」をあわせても、未就学児・就学児ともに5%に満たない回答でした。

病気やけがによる特別対応の有無



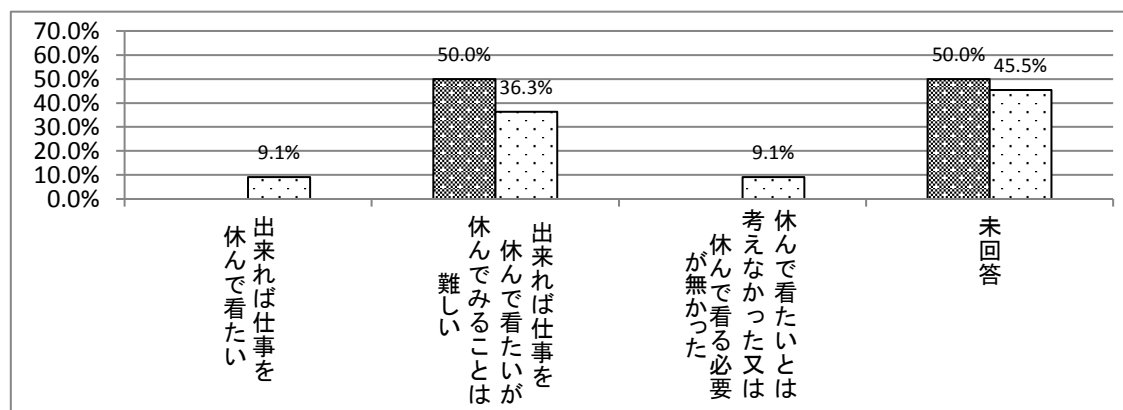
病気やけがによる特別対応の対処方法



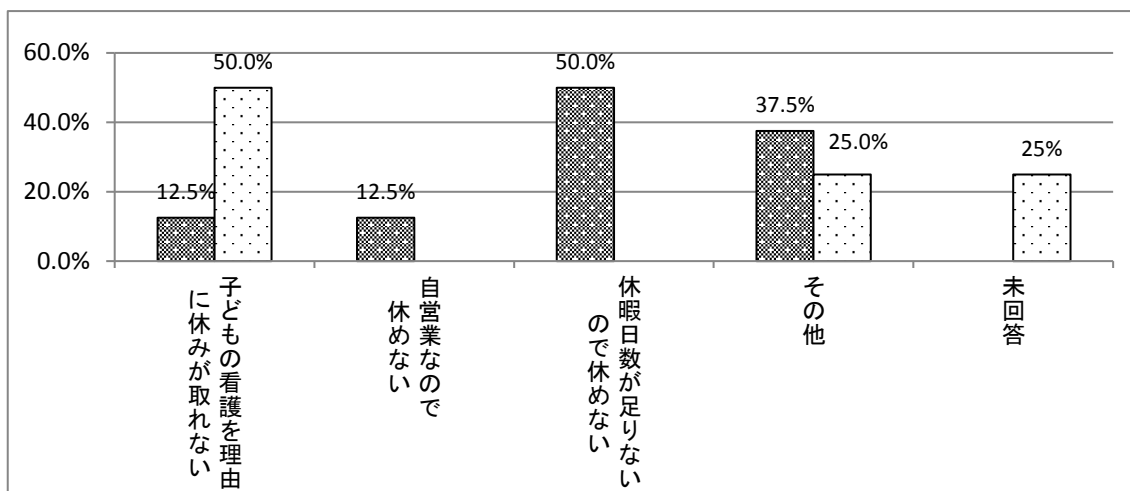
「病児・病後児の保育を利用した」と「ファミリー・サポート・センターを利用した」、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」を選んだ人に対して、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思ったかどうかを尋ねたところ、「出来れば仕事を休んで看たいが、休んで看ることは難しい」との回答が多くありました。その理由として、未就学児では「休め日数が足りないので休めない」が半数を占め、就学児では「子どもの看護を理由に休みが取れない」が半数を占めました。

自由記載欄でも、職場・雇用者への理解を求める意見が多くあり、「子どもが病気の際の預け先がほしい」との意見もありました。

病気やけがのために父母が看る希望



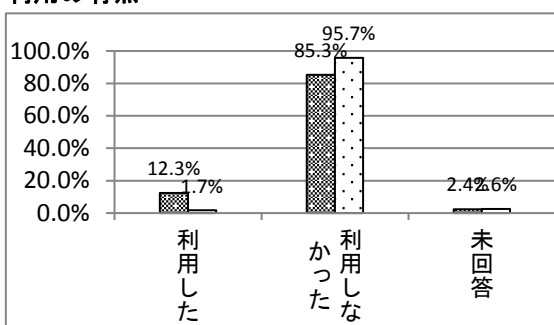
「出来れば仕事を休んで看たいが、休んで看ることは難しい」理由



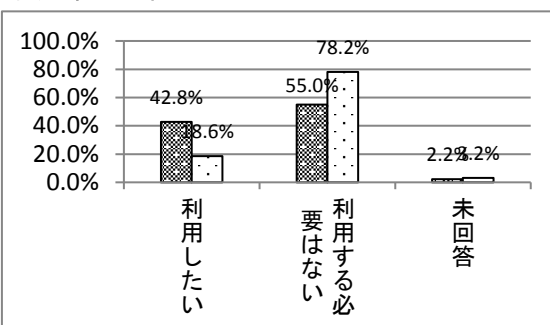
⑦ 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用

未就学児で8割、就学児で9割を超える人が、「利用しなかった」と回答しました。理由として、「利用する必要がない」が8割を超えています。

利用の有無



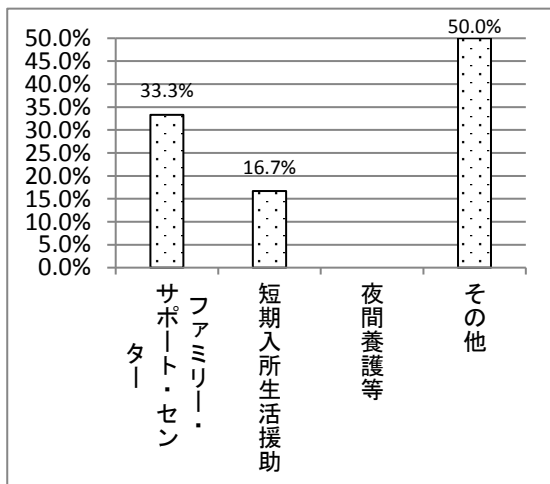
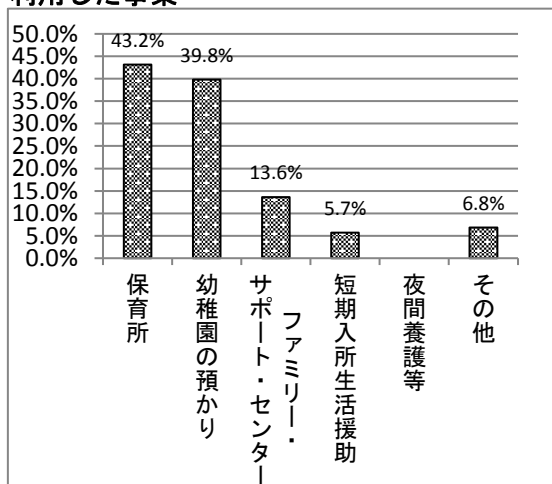
利用希望の有無



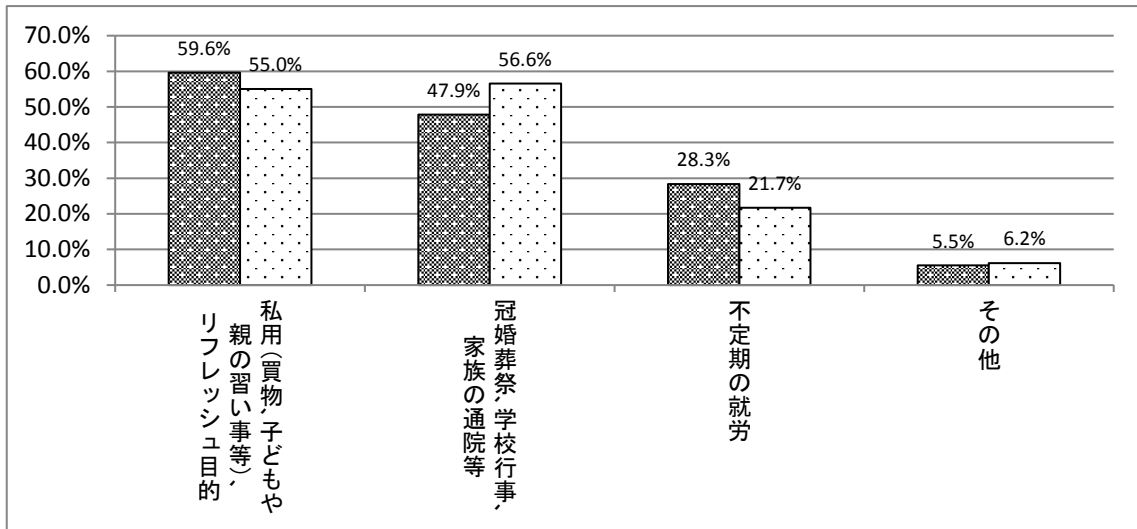
不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等で利用した事業は、未就学児では「保育園」・「幼稚園」が大半を占めた一方、就学児では「ファミリー・サポート・センター」が3割を超えました。利用目的としては、未就学児・就学児ともに、「私用、リフレッシュ」「冠婚葬祭、学校行事、家族の通院等」がそれぞれ5割前後となり、次いで「不定期の就労」が3割弱となっています。

自由記載欄では、「24時間保育」を求める意見や、「気軽に利用できる預かり先がほしい」との意見が多くありました。

利用した事業



利用したい場合の使用目的（複数回答）



⑧ 地域子育て支援事業（子育て支援センター等）の利用状況

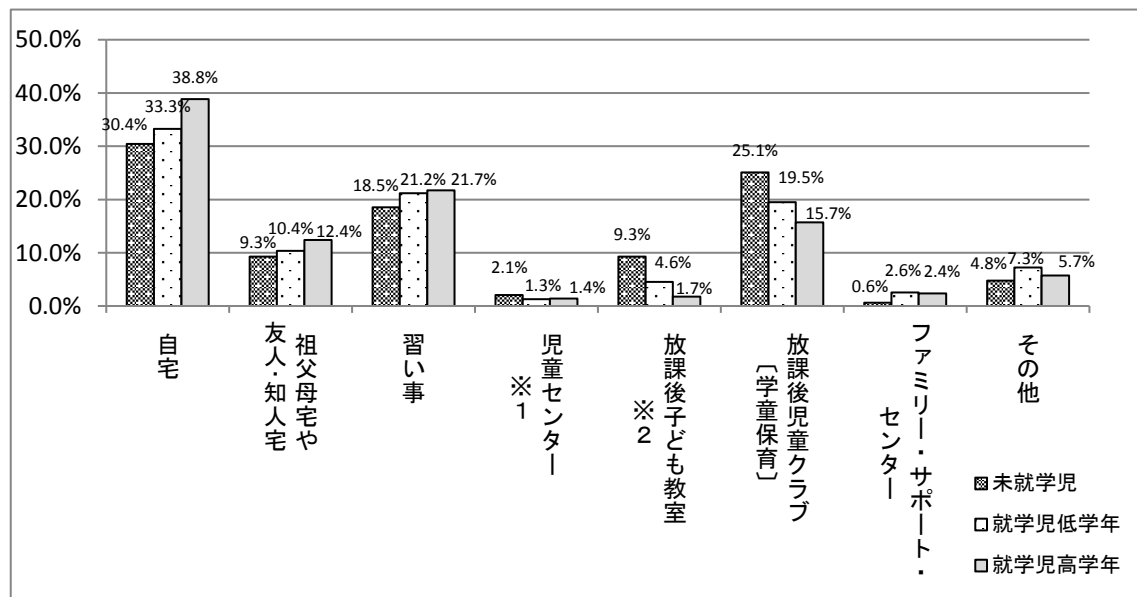
子育て支援センターの利用は、未就学児、就学児ともに「利用していない」が8割を超えました。自由記載欄では土・日の開設を求める声が多くあり、相談などの事業内容拡充への期待の声も多くありました。

また、地域子育て支援事業全体で「内容がわからない」「利用の仕方がわからない」などの声もあり、周知不足も課題として挙げられました。

⑨ 小学校就学後の放課後の過ごし方（5歳以上の児童の保護者のみ）

5歳以上の未就学児の希望及び就学児の現状は、「自宅」で過ごすのが最も多く、次いで未就学児の希望は「放課後児童クラブ（学童保育）」「習い事」の順となり、就学児では「習い事」「放課後児童クラブ（学童保育）」の順となりました。未就学児の放課後児童クラブの土日・祝日の利用については「必要がない」が多くありましたが、長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望については、約3割の利用希望がありました。

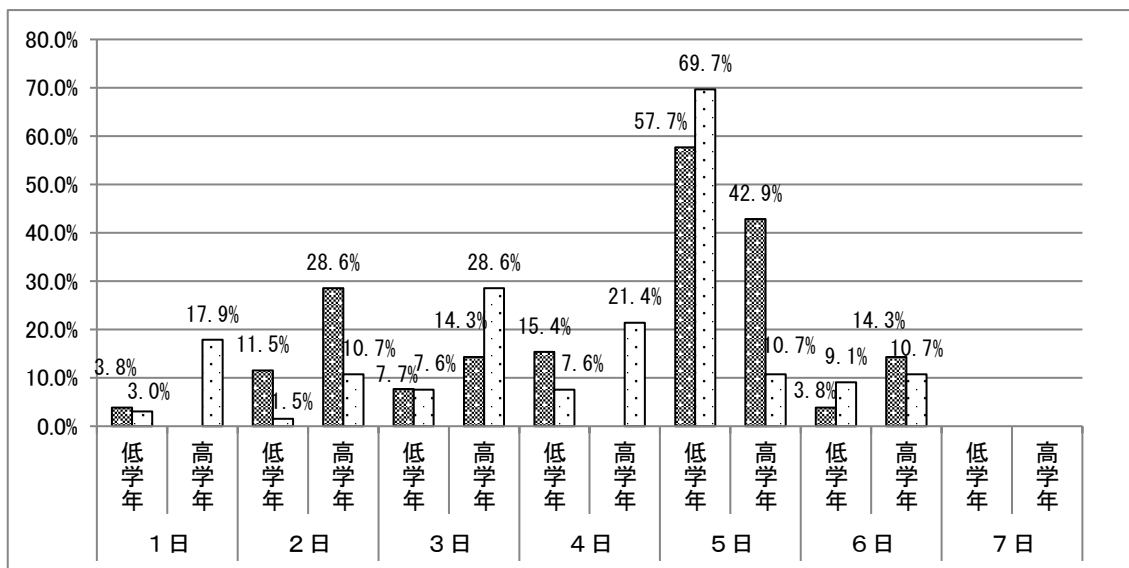
放課後を過ごす場所（複数回答）



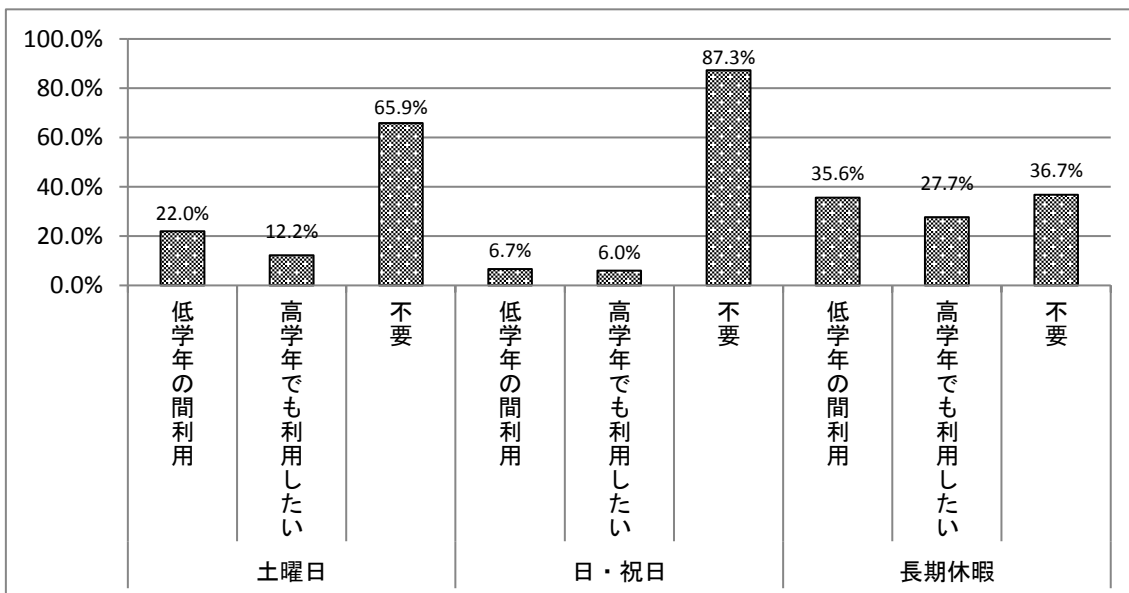
※1 児童センター …… 放課後児童クラブを除く自由来館での利用

※2 放課後子ども教室…… 放課後や週末に小学校や公民館で学習・スポーツ・文化芸術活動などを体験する取組

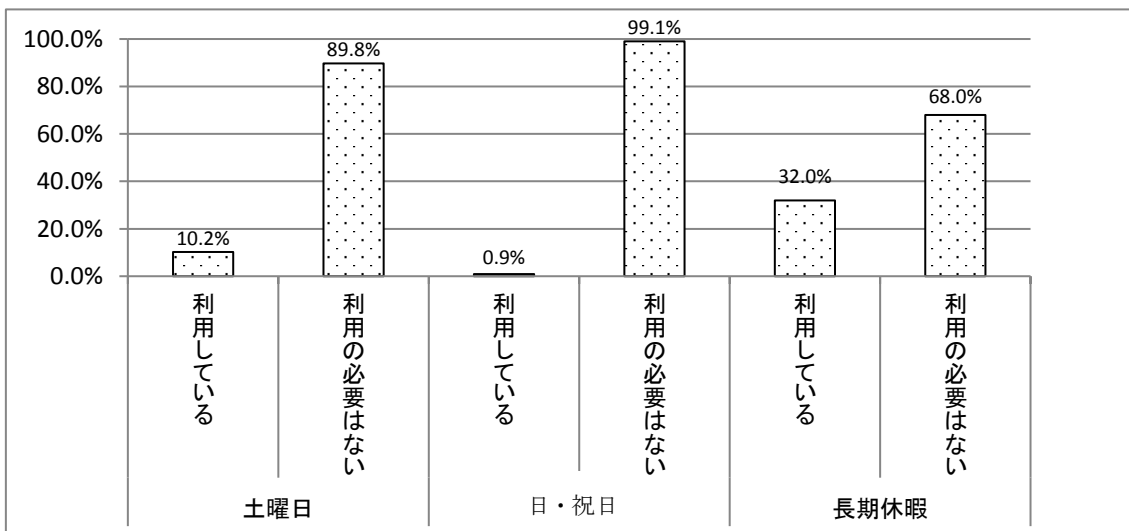
放課後児童クラブを利用する場合の利用希望日数（複数回答）



放課後児童クラブの土・日・祝日・長期休暇の利用希望（未就学児、複数回答）



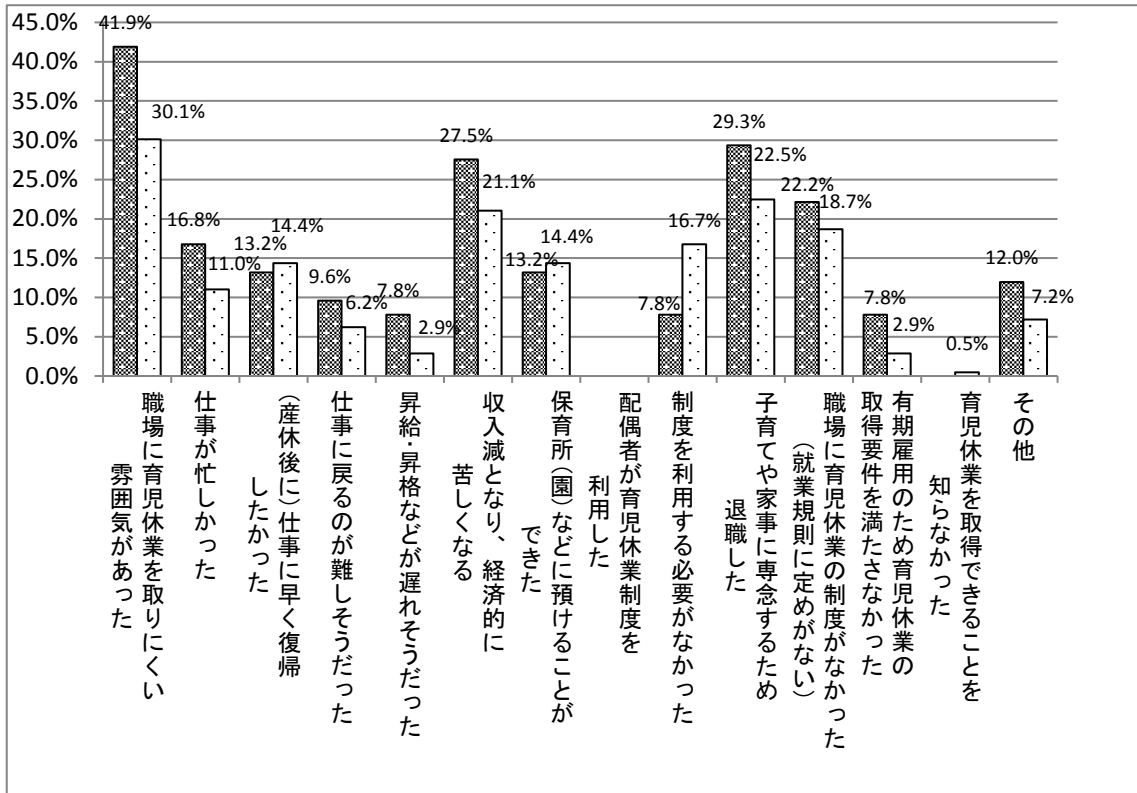
放課後児童クラブの土・日・祝日・長期休暇の利用希望（就学児、複数回答）



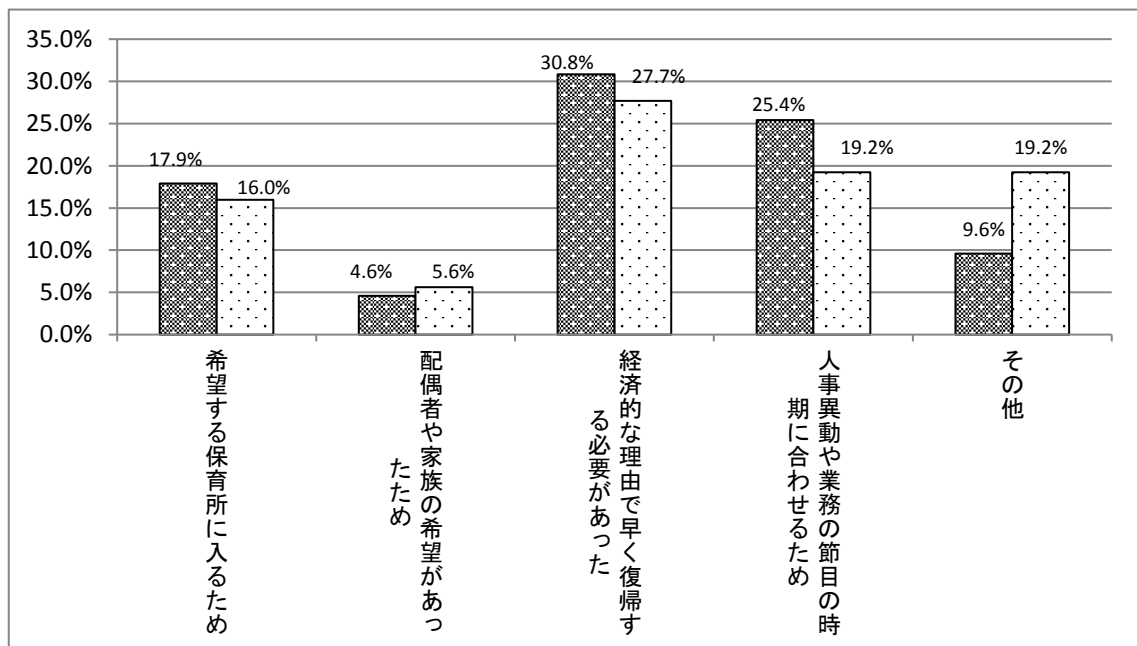
⑩ 育児休業や短時間勤務など職場の両立支援制度の状況

育児休業を「取得した」母親は、未就学児で4割強、就学児で3割強でした。育児休業を「取得しない理由」については、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」という回答が多くありました。育児休業を取得したい希望は、お子さんが「1歳」になるまでが一番多くありますが、実際の復帰はそれよりも早い傾向にあります。復帰時期が早まった理由としては「経済的理由」「業務の節目」が多く次いで「保育所の入所」となっています。復帰時期が遅くなった理由としては「保育所に入れなかった」が一番多くありました。

育児休業を取得しない理由（複数回答）



希望より早く復帰した理由（複数回答）



希望より遅く復帰した理由（複数回答）

